

緑 化 通 信

2017
2月25日
(年7回25日発行)
第457号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階
TEL.(03) 3586-7361 FAX.(03) 3586-7577
URL: http://www.ueki.or.jp/
E-mail: honbu@ueki.or.jp

購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円



平成29年度通常総会

1月25日(水)

高知市 ホテル日航旭ロイヤルで

(一社)日本植木協会は、「ホテル日航旭ロイヤル」で平成29年度通常総会を、1月25日(水)高知市の「ホテル日航旭ロイヤル」で開催した。

【総会前理事会】



通常総会の開会に先立ち、総会運営の確認等を図るための理事会を開催した。理事会には、ブロックの担当者と事務局も加わり、平成29年度総会等への対応、役割分担等について打ち合わせを行い、円滑な総会・大会の運営を図ることとした。

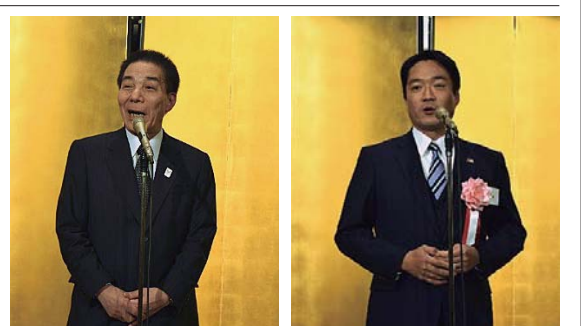
【通常総会】

通常総会は、午後1時半に開会し、開会に先立ち、事務局から定数の確認が行われ、本人出席1,255名、委任状167名、計2,922名で総会が成立したことを告示した後、秋山富士雄副会長の開会の辞で開幕した。



議長は、議長団は、議長に森本泰好氏(株)徳島県植物市場(徳島県)を、副議長に島井聡氏(島井植物センター/高知県)と内山淳氏(株)山都屋(岡山県)を、議事録署名人に丹下貴啓氏(株)瀬戸内園芸センタ

育については、宮公庁等に積極的PRしていくべきである。補助の対象として取扱ってもらえる。社團別生産数量の公開についてどうするかとの質問があり、執行部から、各ブロックにおいて公開について検討しており、ブロックからの承認が得られたら公開したいと考えているとの回答があった。調査事業について、当初の目的を達成したとあるが、当初の目的とは何か、また、集約したデータの活用についてどのように考えているのか質問があり、当初の目的は生産量をデータ化するためのシステム作りであり、データについては公開の方で考えており、今後、提供者の了解を得て協会内での情報提供を図っていきたいとの回答があった。



古賀誠顧問 尾崎正直高知県知事



左から島井氏、森本氏、内山氏

穴倉孝行会長挨拶



平成29年度通常総会を高知で開催するにあたり、沢山の会員の皆様方にお集まりいただき盛大に開催されますことに感謝申し上げます。

また、公私ともお忙しい中、林野庁長官、高知県知事、高知市長、各先生方がご来賓としてご臨席いただいたこと心より感謝申し上げます。

当協会は、緑育事業を始めとする公益的事業を計画に沿って事業を展開しているところでございます。

また、昨年は協会カレンダーをNHK出版「趣味の園芸」編集部との協力を得て作成しました。ただ、発送が遅れ、皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫言申し上げます。今年度も協会カレンダーを作成致しますのでご協力の程よろしくお願い致します。

緑化業界を見ますと、現在は大変厳しい状況にあります。いま一度初心に帰る魅力ある植木生産に取組み、これを幅広くPRして需要の拡大に努めていくことが必要であると考えています。

東京オリンピック・パラリンピックや東北震災復興などの事業に協会がどのようなお手伝いができるのかを明らかにし、造園業界と連携を密に、一丸となって取り組んでいくことが重要になってくるものと思われま

す。これらの需要にこたえるため協会全体で取組み、緑豊かな国づくりに貢献してまいりたいと考えています。

結びに、本日の総会開催にあたり企画・設営にお骨折りのいただいた方々に深く感謝申し上げますとともに、総会にご参集いただいた皆様のご活躍を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

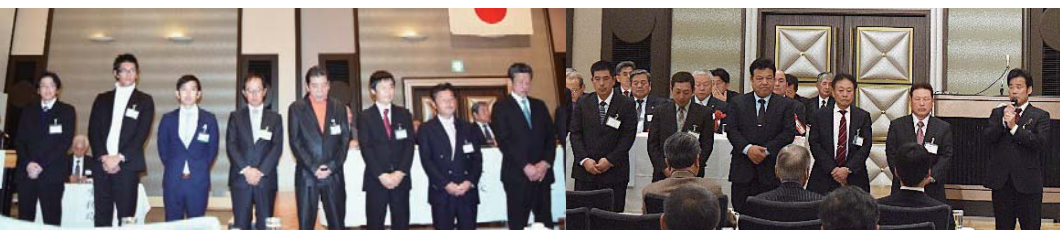
代理、井上哲郎副市長(高知市長代理)、当協会顧問有村治子参議院議員の祝辞を唐川達也秘書長が披露した後、来賓の紹介と祝電が披露された。

頂いた祝電は次のとおり。

山本二農林水産大臣、藤丸敏衆議院議員、中谷元衆議院議員、福井照衆議院議員、中西祐介参議院議員、高野光二参議院議員、(一社)日本造園組合連合会。

続いて、協会会長表彰が行われ、穴倉会長から役職功労表彰が水城清志前会長に、社團に永く勤められた従業員3名に永年勤続表彰、独創的な企画により緑育に貢献した福岡県支部に感謝状が授与された。続いて、特別庭園樹木(名木)3点に認定証が、國忠征美氏にアボック・カルタ賞が授与された。

この後、4月の熊本地震により被害を受けた熊本県支部の社團の方々、会員から寄せられた見舞に対するお礼がなされた。



熊本県支部の皆さん

(一社)日本植木協会会長表彰

役職功労表彰

会長退任
○水城清志氏 (有)水城園芸場 (福岡県)

従業員永年勤続表彰

○瀬尾重明氏 (有)田宮園芸
○山口 聖氏 (有)浅中錦松園
○竹井英樹氏 (株)山地緑化センター

感謝状

○福岡県支部(緑育出前授業)

平成28年認定 特別庭園樹木(名木)

○横山久馬二氏 (有)横山緑化センター

第9回アボック・カルタ賞表彰

○國忠征美氏
グローバルグリーンクニタダ
※本賞は、植物名称、特に栽培植物の名称の安定に貢献した人に授与されます。

この他に意見も無く議案の審議は滞りなく終了し、議長団が退任した後、平成30年度の通常総会開催地である関西ブロックの辰巳広之ブロック長から歓迎の挨拶を頂いた後、青年部の紹介では櫻井太田会長から挨拶を頂き、最後に賛助会員からの自己紹介があり、午後4時に阪上和彦副会長が閉会を宣言し通常総会を閉会した。

総会終了後、高知県支部意見交換会

記念講演は、(株)インタークロス代表の栢野克己氏による「小さな会社の稼ぐ技術」成功事例100連発をテーマに講演が行われた。

栢野克己氏は、立命館大学経済学部を卒業後ヤマハ発動機に入社、その後、日本IBM等において業務経験を積み、1995年に現在の会社を設立している。講演は、これまでの体験した事例を主に話された。講演終了後、穴倉会長からお礼の言葉を述べ終了した。

山中正道氏の司会で意見交換会が行われた。加藤一曰ブロック長の歓迎挨拶で開会し、穴倉孝行会長の挨拶に続いて、古賀誠協会顧問、尾崎正直高知県知事のご挨拶を頂いた後、意見交換会のご来賓紹介が行われ、総会において役職功労表彰を受賞した水城清志元会長の乾杯を受けて懇談・懇親の宴に入った。全国各地からの会員とご来賓の方々と懇談や互いの歓迎を通じた大いに盛り上がり、宴たけなわの中に、島井聡高知県支部長の閉会の辞により行事を終了した。

コンテナ部会

平成29年度通常総会報告

平成29年度コンテナ部会通常総会は1月26日9時より高知共済会館コミュニティスクエア3階で32名の部会員の参加を得て、松村副部会長の開会宣言により総会が進行した。

吉澤部会長の挨拶では樹木需要の低迷により厳しい状況ではあるが、東日本震災復興や2020年東京オリンピック・パラリンピック需要ではコンテナ植物が期待され、生産の仕込みの年になる内容をふくんだ挨拶があった。来賓挨拶では、矢倉孝行協会長より日頃よりの協会事業(植生アドバイザー、地域性植物、環境緑化識別検定、おもてなしガーデン等)に協力を頂き感謝する言葉を含んだ挨拶があり、最後に正木伸之担当理事より日頃の活動を賞賛する内容の挨拶後に議事へと進行した。

司会者より議事に先立ち議長選出を参加者に意見を求め、会場より「司会者一任」の声により司会は徳島県支部(株)徳島県植物市場森

本泰好氏を指名し承認された。

議長は議事録署名人を参加者に同うと会場より「議長一任」の声により愛媛県支部(株)瀬戸内園芸センター丹下貴啓氏と香川県支部(株)半田植物園半田茂富氏を指名し、参加者の承認を得た。

議長は第1号議案・2号議案と第3号議案・第4号議案は関連性が強い為、それぞれ一括採決を行う提案を行い、賛成多数で承認された。

第1号議案 平成28年度事業報告は各委員長、委員(吉澤氏、松村氏、飯田氏、恒石氏)がパワーポイントを駆使して事業報告を行った。

第2号議案 平成28年度決算報告が事務局より報告され、監事竹中昭雄氏よりの監査報告を受けて、議長は第1号議案と第2号議案を一括で採決し、賛成多数で承認された。

第3号議案 平成28年度事業計画案は、事務局から事業計画案が報告された。

第4号議案 平成29年度事業予算案が事務局より報告され、第3号議案・第4号議案共に審議し、愛媛県丹下



吉澤部会長

岡山県支部グローバル

氏と大阪府の岡本氏より以下の質問があった。

1) 耐乾性試験費用は多額であり、その成果と活用について

恒石副部長より部会員へ報告書をまとまり次第情報を提供するともに、官公庁への技術PRと販路に繋がる営業アイテム活用する報告。

2) 販売予算計画で個々の売り上げ内容の質問について

3) 耐乾性試験予算が昨年同様の金額計上について

4) 社團別生産数量調査協力社團が少ない質問について

全社團の提出が望ましいが、提出するように今後も依頼を個別に行う報告、また前年よりも提出社團が増えた報告。

質疑が終了し、一括採決し、賛成多数で承認された。その他の議題提案は会場よりなく、総会は無事閉会し森本議長は議長を退任した。



クニタダ國忠征美氏の受賞の報告。

2・従業員永年勤続表彰 鳥取県支部(株)田宮園芸 瀬尾重明氏の報告。

3・協力会紹介 恒石生産技術・研修委員長の司会で総会参加企業(株)東海化成・(有)グリーンサポーター・(株)阪中緑化資材・大信産業(株)の各社自己紹介と商品紹介を行った。

総会関連事項は参加者の協力のもと、全てを10時30分に飯田貴大副部会長の開会の辞で終了した。

記念講演 10時30分より(公財)高知県牧野記念財団 植物研究課長・研究員、高知大学理学部准教授 理学博士 藤川和美氏による「ミャンマーにおける植物多様性と保全」についての講演が行われた。

講演内容では、最初に牧野植物園の社会的役割、取組そして牧野富太郎先生の業績についての講演であった。牧野植物園は昭和33年に開園し、面積は18ha、文献・植物図約5万8千点保

有し、地域の憩いの場や観光拠点、植物の普及教育活動、植物分類調査研究、薬用植物産業振興及び植物の種の保存等の活動を行う。また、牧野先生の業績報告では、特に植物標本約40万点(首都大学東京所有)、新種記載約1500種類また現代の植物図鑑の先がけ者としての業績。

続いて、ミャンマーにおける植物多様性では種子植物約11,800種が生息し、四季は雨季と乾季の2季であり植物分布も沿岸部はマングローブ類、ヤシ類が主である。中央乾燥地帯はサバナ林が広がる。落葉樹林帯はフタバガキ林やマメ科植物が繁茂している報告。そして常緑樹林帯はタイキンギク類、コルヌス類、ヒマラヤザクラ、ツツジ類等の生息が報告された。

つぎに植物資源探索では有用植物化学分析を行い、フィールド調査や薬用サンプル調査、そして市場調査を行うなど現地の産業として根づく活動を行っている報告。

恒石副部長司会進行で会議に先立ち吉澤部会長、正木理事の挨拶後に参加者全員が自己紹介と事業紹介

高知大学理学部准教授 藤川和美氏



高知大学理学部准教授 藤川和美氏

高知大学理学部准教授 藤川和美氏

ミャンマー植物多様性



種子植物 約11,800種 (Kress et al. 2003)

特に薬用植物の人参属や欄類(デンドロビウム)の栽培技術の現地指導の苦労した点は参加者の共感を得た。

恒石副部長司会進行で会議に先立ち吉澤部会長、正木理事の挨拶後に参加者全員が自己紹介と事業紹介

高知大学理学部准教授 藤川和美氏

高知大学理学部准教授 藤川和美氏

香り…雑感。 第10回 煙草のにおい

足澤 匡 (小岩井農牧(株)・岩手県)

私は煙草のにおいが嫌いだ。最近ではめっきり嫌煙家が強くなり、愛煙家は肩身の狭い思いをしているので、あまり大きな声で言いたくないが、私は煙草のにおいが嫌いだ。かつては仕事場で、会議中でも、飲みに行っても、どこでも煙草の煙まみれ、我慢の日々が続いていた。喫煙自体、以前から健康を害することが知られていたが、間接喫煙により煙草を吸わない人への害が明確になったために、私のような嫌煙家ははっきり言える時代が来たのである。私は煙草のにおいが嫌いだ。とてもいい時代になったと考える。



やっとの思いで見つけた「たばこ畑」

ところで、煙草は、ナス科タバコ属の「タバコ(煙草): Nicotina tabacum」から作られる。植物の「タバコ」はどんなにおいがするのだろうか? 嫌煙家なのに、疑問を持つと確かめたくなる衝動に

襲われた私は、実家のある岩手県に帰省した際に、「たばこ畑」を探すドライブに出かけた。昔はよくドライブすると、至る所に「たばこ畑」があったと記憶していた。しかしながら、喫煙者の減少が原因なのか? いくら走っても目的の「たばこ畑」を捜し出せない。とある産直市場で情報を入手し、やっとの思いで嗅ぐことが出来たが、ある意味、煙草臭くないのである。お世辞にも「いい香り」とは言い難いが、変に甘ったるく癖のある香りで、花も同様の香りがした。そんなことより、全体が腺毛で覆われていて、ベタベタしていることが衝撃的だった。

調べてみると、煙草の独特のにおいは、煙草を製造する際に加えられた多くの添加物(アセトアルデヒドなど)が煙になる時に、煙草臭い成分を発するそうである。植物の「タバコ」自体はそれ程臭くないのに・・・不思議な話である。私が嫌いな煙草の臭いの原因は一体何なのだろうか? もしかして、大好きな香りの添加物で煙草を作れば、愛煙家になるかも知れない・・・? 疑問は疑問を生んでいく。それもまた楽しい。



「タバコ」の花。そういえば、花壇に使う「ニコチアナ」に似ている。

植生調査委員会

委員長 葛 西 伸 彦
(株)グリーンナーセリー前田・愛知県
副委員長 菅 原 英 典
(株)みちのくビオトープ・岩手県
副委員長 清 瀧 陽 平
(有)キョタキナーセリー・大分県

事業内容について

植生調査委員会の主な事業としては「植生アドバイザー育成講座」と「植生管理士認定試験」と「植生調査トレーニングセミナー」があります。

「植生アドバイザー育成講座」

まず「植生アドバイザー育成講座」は毎年、8月末から3泊4日で群馬県川場村にて行われているセミナーになります。A、B、Cの3段階のコースで構成されており、植生学の基礎から調査方法、モニタリングデー

験ですが植生調査から得られたデータをもとに修復のためのプランニングまでを担うことが出来るプロの技術者を認定するもので、筆記試験と実技試験で構成されています。ただし、植生アドバイザー育成講座の3コース修了者には実技試験が免除されるようになっております。



フィールドワーク

「植生調査トレーニングセミナー」

最後に「植生調査トレーニングセミナー」は全国各地の植生を自分の目で触れて、講師の先生と共に勉強できる場を定期的に開催しております。今回は第1回目のレポートをお届けしたいと思います。

第1回トレーニング

グセセミナーは昨年度岡山県にて2泊3日に行われました。

1. 研修名 植生調査トレーニング

ミナリ in 岡山

2. 研修期間 平成28年7月22日～7月24日

3. 研修内容
1日目 久米郡美咲町の本山寺にて野外実習およびホテル会議室での座学講座

植生調査委員会の facebook



本山林木遺伝資源保存林においてヤブツバキクラスの豊富な植物種の観察、立

樹種の選定を行った植栽工の実例、その後の経過について研修を実施。ホテル会議室において國忠征美先生より岡山県の植物や地質などの説明、鈴木伸一先生より植生学の基礎と応用例などの講義を実施。

3日目 満奇洞にて植物観察
岡山県の標高400mの草間台のドリーネにできた石灰岩にみられる希少な環境と植物（チョウジガマズミ、ヤマトレンギョウなど）を観察。

今後とも全国各地で開催する植生学の必要性と利用に関する講義を実施。

2日目 植生調査実習、植栽現場の見学およびホテル会議室での座学講座
岡山県立森林公園において多様な立地での植生調査を実施、フナクサスの植物種の観察。苦田ダムにおいて植生調査を基にした植栽

植生アドバイザー育成講座卒業生の声

酒井 志磨さん

「公園等の設計業務において、地域の自然・生態系への配慮が求められる中で、現場での自然の捉え方や植生データの読み取り方、設計への活用等について学びたく、受講しました。

専門知識が足りない上での受講は大変でしたが、座学から実習の一連の流れで学ぶことができたことは大変有意義でした。

今後とも様々な現場で研鑽を重ねつつ、自然のメカニズムや植物の潜在能力を上手く活用した緑化等、業務に活かしていきたいと考えております。」

お知らせ

植生アドバイザー育成講座 受講生募集

講座は、全3コースで構成されており、1年ごとに段階を踏んで受講していただくことで、植生学の基礎～植生調査手法～データの分析と植栽計画の立案～植栽とモニタリングを体系的に修得できるカリキュラムが組まれています。本講座は、その優れた内容が評価され、環境省と農水省共管の「人材認定等事業」の育成事業として登録されております。登録内容は環境省ホームページをご参照ください。 <https://edu.env.go.jp/reg/>
日時場所：平成29年8月27日（日）～8月30日（水）（3泊4日）群馬県「なかのビレジ」

内容：1年目は第1段階の「A 植生調査コース」
2年目は第2段階の「B 植生景観調査コース」
3年目は第3段階の「C 植生復元・モニタリングコース」

受講料：59,000円（税込）
（3泊4日の研修費・宿泊費・食事費用等を含みます）
※早期割引：6月30日までのお申込みの方は56,000円（税込）
※上記金額には、上毛高原駅までの交通費は含んでおりません。
※講義テキスト「植生景観とその管理」をご用意願います。
※造園 CPD に登録申請中、CPDS 認定済

樹木識別ポイント講習会 参加者募集

植木圃場から教室に生きた樹木の枝葉を持ち込んで、似ていて間違えやすい樹種を葉と枝だけで見分けるポイントを学びます。樹木識別のスペシャリストを目指す方には是非おすすめです。
日時場所：平成29年6月10日（土）13:00～16:30
千代田区 日比谷公園 緑と水の市民カレッジ
東京都千代田区日比谷公園1-5

講師：環境緑化樹木識別検定実施委員長 川原田邦彦 氏 ほか
費用：一般5,000円 学生3,000円
定員：各50名（先着順）
※この講習会は、造園 CPD プログラムに登録認定済です。

会 員 動 向

代表者・住所等変更

▷(有)茨城コンテナ（埼玉県）
(新) 畠山忠重 (旧) 島根純子
(新) 〒333-0811
埼玉県川口市鳩ヶ谷本町2-10-24
TEL：0297-36-1092 茨城（営）
FAX：0297-36-1093 茨城（営）

新樹種部会・入会

▷(株)内田緑化興業（埼玉県）
内田 香

代表者変更

▷佐野園（東京都）
(新) 佐野栄信 (旧) 佐野武義

社名・メールアドレス変更

▷(新) 石川園（東京都） (旧) (有)翠宏園
(新) tsuyoshi 1128@gmail.com

計 報

佐藤きみ子様（山形県）
(株)出羽園（佐藤和克氏母）
平成28年11月30日没
享年91歳

鈴木康夫様（神奈川県）
寿々喜園一里山（協会員）
平成29年1月14日没
享年65歳

尾上 緑様（神奈川県）
尾上園（尾上信行氏母）
平成29年2月2日没
享年88歳

近藤初江様（神奈川県）
(有)小田原植木（近藤盛太郎氏の祖母）
平成29年2月11日没
享年94歳

コンテナ農場（100万本生産）



コンテナ農場



オリーブ



カンツバキ赤花と白花

(株)瀬戸内園芸センター



愛媛県今治市旦甲 248-1 TEL 0898-48-0010(代) FAX 0898-48-8187
<http://www.setoen.com/> E-mail: setouchi@setoen.com

主な生産物

クロマツ コニファー類 ヤシ類
カシ類 クスノキ タブノキ
モチノキ ウバメガシ オリーブ
カクレミノ クログネモチ
サンゴジュ シマトネリコ
マテバシイ ヤブツバキ ヤマモモ
レッドロビン オウゴンマサキ
カンツバキ(赤花と白花) サザンカ
シャリンバイ ツツジ類 トベラ
ハマヒサカキ ヒサカキ ミカン類
サクラ類 イロハモミジ ハナモモなど

地方かわら版

モンゴル国ウランバートル市
近郊における苗木生産

安藤 啓 太
(安藤山林緑化有限会社・北海道)

1. はじめに

この度、執筆依頼を受けまして弊社の変わったことを皆様に少し紹介できたらと思い、この文章を作成しております。まずは、弊社について簡単に説明させていただきます。

弊社は1918年に初代

安藤薫が北海道の中富良野の地に入植し、以来99年間苗木の生産を行っておりま

2. モンゴル国
ウランバートル市へ

先代である安藤薫が初代より「夢はモンゴルのゴビ砂漠の荒廃化を止めること」と聞かされていたことを胸に留め、様々な形でモ



ンゴルと関わることであります。エゾヤマザクラやチシマザクラをモンゴル国内の日本人墓地へ植樹を行うなどの機会がありました。縁あって平成23年5月にモンゴル現地法人 ANDO GREEN LLC を設立しました。その際に、安藤啓太が責任者として以降2年半ほどモンゴル国ウランバートル市近郊にて生産を行うこととなりました。

3. ウランバートル市へ

平成23年4月よりウランバートル市へ本格的に生産開始を考えておりましたが、当初は通訳以外ほとんど何も決まっておらず、現地の調査を一から行ななければなりません。モンゴル現地法人の協力会社はあったのですが、建設会社のため専門知識を有しておらず、我々の思い描く生産資材とは遙か遠い建築資材を紹介され非常に苦労しました。結果として、それなりのものを発見しているのですが満足なものはありません、日本で行うそれと

は要領が違います。そのため、困惑する毎日を送っております。結局のところ、本当に必要なものについては日本から輸入し日本製品を使うほ

かありませんでした。特に毎日使うような耐久性の求められる物については中

国、韓国からの製品がメインで、日本人にとっては耐

久性や使用用途に非常に辛

いものがありました。また

並行して長期間滞在のため

のビジネスビザの取得手続

きが間に入り、気が付くと

2ヶ月ほど経過しており、

時間を有効に使うことが難

しい国であると感じまし

た。

4. モンゴル国の環境

モンゴル国にて生産を行

う上で重要なことはその気

候でした。降水量は年間お

よそ200mmに到達しない

程度、平均気温は、5月、

9月15度あるかないか、10

月、4月はマイナス

15度前後と非常に厳

しい環境にあります。

河川はここ15年

ほどで大小50ほどが

枯渇し、水資源は地

下50mほどからくみ

上げた地下水を利用

しております。し

かし、鉱山資源の多



水資源が枯渇するのは既に明らかとされております。そのため、鉱山採掘跡地などは砂漠荒廃化へ拍車をかけており、復旧は急務とされているのが現状となっております。

5. 生産方法

モンゴル国内の環境を考

慮し、既存の手法ではな

な活着が難しいと判断し

たため、ふるい根での生

産は早期に取りやめました。

モンゴル国内において、浅

根性になる植え方は千ばつ

に弱く、将来的にも風倒木

の要因となりうるため

です。そのため、実生木かつ

根を切らない状態で移動

が可能な生産方法として2

ヶ月ほど経過しており、

種類ほどの生産方法を見当

しました。

①コンテナ苗

コンテナ苗は現在全国で

も脚光を浴びており、世界

各地でも主流の手法のため

これの実験を行いました

が、生産資材が乏しいモン

ゴルでは安定した資材の搬

入が難しく、さらには高額

での取引のため断念いたし

ました。また、コンテナ苗

の特徴である根鉢は水分の保持が乏しいため、モンゴルのような非常に厳しい環境では植栽後の根鉢による水分保持が期待できないと判断しました。

②直根苗

信州大学名誉教授である

砂防緑化工学の第一人者で

ある山寺喜成教授が考案し

た生産方法。数種類の土壌

を攪拌したもの成型機に

より成型したブロックに播

種を行い、苗を生育させ根

を回したものをブロックご

と植え付ける手法。これは

植付後も水分の保持が優秀

であるため、これを選択し

ました。(別添写真 ブロ

ックの生産)

6. 問題発生

モンゴル国内で生産して

いたこのブロックでした

が、播種、発芽は概ね順調

に推移しました。(水温が

低い、ネズミの発生で様々

な問題が発生しましたが)

9月の中旬くらいに寒波が

到来し、雪が降りほぼすべ

ての樹種が全滅しました。

ビニールトンネルによって

生育させていたため、夏の

暖かい時期より順化期間を

持たせている最中にこのよ



地球に優しく、植物にも優しい
生分解性 biopot



有限会社 グリーンサポート

大阪府貝塚市三ツ松 688-3

TEL 072-447-0112 ・ FAX 072-447-0133

HP: <http://www.green-support.com>



め、地面を掘り下げ気温の変化に対応しやすいような環境を整備する必要があります。寒風は非常に強く、苗木の保護には厳しい条件であると言われていたことから大量の落ち葉などによって苗木が見えなくなるまで保護するなど様々な手法を試してみましたが、日本の樹種は難しいように感じました。冬の到来が早いため、早期の木質化が行われないことも要因の一つとなりうると感じております。反対にモンゴルの樹種は越冬準備が早いので育つことが分かっております。

8. 終わりに

モンゴルでは2年半ほど生産を行ってまいりました。

が、植栽実験等追跡調査の最中にモンゴル国の政情変化による不安を感じたため、撤退いたしました。環境の変化は自然だけではなく、人間の不安も多く含まれており、集中した苗木生産を行うことができない環境と判断しました。しかし今、地球環境は大きな変化に見舞われております。そのため、我々の苗木生産業は停滞してはいけな

あなただけの本を作りませんか？

あなたの夢・あたためている作品を形にしてみませんか？
皆さまの本作り一準備から納本まで一誠意をもってお受けします。

関東図書 自費出版 KANTO TOSHO

わたしたちに
おまかせください！

関東図書株式会社

〒336-0021 さいたま市南区別所3-1-10
TEL 048(862)2901代 FAX 048(862)2908代
0120-161092
<http://kanto-t.jp/>

●自分史・写真集・画集・歌集・句集・詩集・小説・随筆 他を
お考えの方は、どうぞお気軽にご相談下さい。
編集スタッフが、お相手します。

●ISBN(国際書籍コード番号)もとれます。

～緑化木・種苗生産用資材 総合取扱い～

【取扱い品目】
根巻用麻ロープ・麻布・麻テープ、ポット類
支柱各種、防風網・寒冷紗・ネット類各種、
スリングベルト、モッコ、葉刈袋、その他

谷口産業株式会社

TEL : 072-432-1828 FAX : 072-432-1838 <http://www.ts37.co.jp>



緑育出前授業で希望を創ろう

緑育出前授業推進委員会 委員長 加藤 一 巳

そのスタートは、当時の生駒青年部会長の思い「全国的な協会PRをやりたい」が懸案となって、その課題が次期部会長に引き継がれる中で生まれたのが出前授業でした。

当時、すでに何名かの会員は独自に地域の小学校での社会人講師として授業を行っていました。そこで、これを協会事業として取り組めないだろうかとしてスタートをしました。そのことを顧問である有村治子議員との懇談の中でお話した際に「緑育」というキーワードを頂き、単に緑の大切さを話すだけでなく、地域のキャリア教育的側面も踏まえたものにしよう。ということで大まかな方向性が出てきました。合わせて、青年部事業ではなく協会事業として取り組むことも方向性として確認しました。

- ①緑育出前授業は協会事業としてブロック協力のもと支部単位で行う。
- ②基本、地元の植木会員が自分の仕事の紹介も行いながら、子どもたちに植物の大切さや育てる必要性をPRする。
- ③学校のみならず、地域でのイベント等へ参加して一般向のPRの緑育出前授業も行う。

しかし、思ったようには進みません。実際に学校へ行っても、カリキュラムがいっぱいであったり、そもそも学校との接点が乏しかったりして、そのきっかけさえ出来ないことも各地から報告がありました。それでも、一度、緑育出前授業を経験された方が、その達成感や面白さに気づかれ、地域で毎年開催して頂いている支部も出てきました。

何でもそうですが、「やらされる」ことは苦痛です。でも自分で「やる」ことは快感に変わります。その過程は決して楽ではありませんが、子どもたちの一人でも植木に興味をもってくれて、その生態や環境に関心をもってくれることが出来たなら、やった意味は高いと思います。

私たちが植木を生業とするのは、単にお金を儲けるためだけでは無いはず。植木を通じて社会に貢献したい。人々を幸せにする産業でありたいという自負と願いが日々の仕事に生きているのだと思います。緑育出前授業はそんな社会を作る思いを語ることも必要であり、地味で、息の長い活動だと思います。もし、授業する人が居ない支部があれば本部にご相談ください。

この活動を通じて、植木を理解してもらうこともさることながら、自分自身の成長につなげて頂きたいとも切に思います。

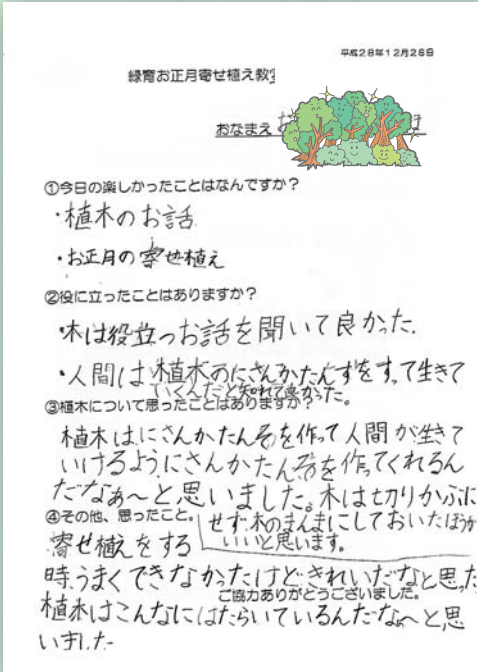
あまり難しく考えても仕方ないので、とりあえず動いてみてから考えても良いのではないのでしょうか。変化をもたらすには動かないと始まりません。そのために自社の経営がゆらいではいけません、投資もいらない少しの冒険です。何より子どもたちに元気を頂けることは保証します。



「きになる漢字パズル」を作製しました。使用する場合、事務局にご連絡下さい。

緑育出前授業 実施履歴 一覧表(平成28年度～29年度1月末)

実施年月日	実施B・支部	実施箇所	対象学年	生徒数
H27.12.1	埼玉県支部	川口市立小学校	3年生	160名
H27.12.4	神奈川県支部	横浜市立小学校	3年生	58名
H28.7.15	熊本県支部	菊池市立小学校	5年生	100名
H28.8.3	三重県支部	桑名市学童	1～3年生	11名
H28.8/6～7	緑育出前委、青年部会関東・甲信越B	江東区青海	小学生他	126名
H28.10.7	福岡県支部	飯塚市立小学校	4年生	32名
H28.10.13	愛知県支部	稲沢市立小学校	4年生	60名
H28.10.22	大分県支部	大分市少年団	1～6年	(120名)雨天・中止
H28.10.23	緑育出前委、福岡県支部	小郡市	小学生他	150名
H28.11.4	鹿児島県支部	出水市小学校	3年生	110名
H28.11.18	鹿児島県支部	出水市小学校	3年生	110名
H28.11.15	埼玉県支部	川口市立小学校	3年生	160名
H28.11.24	熊本県支部	あさぎり町立小学校	4、6年生	30名
平成28年度 12回/1107名				
H28.12.28	三重県支部	桑名市学童	1～4年生	15名
H29.1.17	島根県支部	益田市立小学校	1～6年生	29名
平成29年度 2回/44名(1月20日現在)				





連載 第1回

植木カルチャーショック

高接ぎ街路樹

東京農業大学 地域環境科学部 准教授・グリーンアカデミー主任講師 大 出 英 子 氏

海外を訪れると、日本で慣れた植物が、日本とは違う使われ方や仕立てられ方をしている驚くことがありますか？

私が初めて海外を訪れてから30数年が経ちますが、その間に、様々な植物や園芸文化に関するカルチャーショックを受けてきました。今回、縁あって連載



写真1) イギリスの住宅地の街路樹

も多いと思いますが、そんな時は、園芸畑で育ったから仕方がない、と、どうか大目に見てやってください。

大学を卒業してすぐにイギリスを初めて訪れたのですが、街路樹を見ていて、度々違和感を覚えることがありました。中でも、高さや樹形が異様に揃っていて、しかも、同じ高さから枝が一齐に放射状に出ている街路樹（写真1）を見たときに「どうしたらこういう並木になるのか」と非常に不思議に思いました。野生の鹿がいるロンドン市内の公園の樹木や、郊外の牛や羊などの放牧地の木々などでは、届く高さまでの下枝を草食動物が食べてしまい、枝の高さや樹形が揃って見えることがありますが（写真2）、それとは様子が違います。はじめは、東京で時々見かけるケヤキの街路樹のように、同じ高さで無理やり



写真2) ロンドン市内リッチモンド公園の樹木

のチャンス을いただきしたので、それらの私が今までに受けてきたカルチャーショックの中から、植木に関する事を思い出すまま綴らせていただきたいと思います。中には、すでに日本でも馴染みになったものもあり、植木業界の皆さんにとっては「何をいまさら」と感じられることも

切り揃えてそこから枝を出させたものなのかとも思ったのですが、八重桜の「関山」や「普賢象」などは、どこで見てもほぼ同じ仕立て方で同じような樹形をしていて（写真3）、よく見てみると、枝分れの部分に接ぎ木の継ぎ目と思われる段差が見えることがありました。そこでやっと高い位置で接ぎ木をしているらし

いということがわかったのですが、私のそれまでの経験には植木をそのように仕立てるという知識も経験もなかったもので、非常に驚きました。それと同時に、なるほどこうすれば高さも形も揃えられる、と納得もしたのですが、それでも違和感が残っていました。

翌年、オランダのキューケンコフ公園を訪れた時です。チューリップやムスカリ、ヒヤシンスなどの色とりどりの球根植物に囲まれた八重桜を見て、「そうか、この高接ぎの八重桜は、八重桜のスタンダード仕立てなのだ！高接ぎの植木は、植木のスタンダード仕立てなのだ！」と突然ひらめきました。そう思えた瞬間は、高接ぎされた植木を今までの理解とは違う別物と考えればいいと思えた瞬間でもありました。自然さを求めれば違和感があるかもしれませんが、形や大きさが揃い規格化しやすい苗木は、キューケンコフのように植物で描く模様の素材や、植物という有機物を無機的なデザイン素材として使うには最適ではありませんか！

自分が馴染んだ習慣や文化に触れた時、私はつい自分の文化や感覚の方が正しくて、異なる習慣や文化を拒否したり間違っているかのような態度になり、固定観念に縛られていることに気付くまで長く時間がかかってしまいます。この調子では、これからもっと多くのカルチャーショックを受けていきそうです。



写真3) 「白普賢」並木



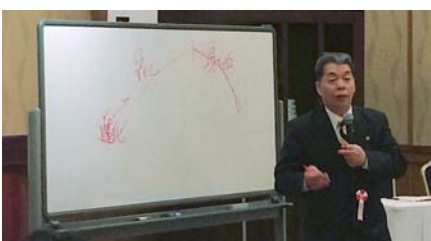
写真4) オランダで見た銅葉枝垂れブナの高接ぎ苗

◆プロフィール

栃木県都賀町（現・栃木市）生まれ。東京農業大学農学科卒業後、英国王立園芸協会、(株)タキイ種苗、東京農業大学大学院（造園学修士）、(株)大林組などで、幅広く植物に関わった後、目白大学短期大学部准教授を経て、現在は、東京農業大学グリーンアカデミー主任講師（地域環境科学部准教授）。NHK「趣味の園芸」、老人ホームなどでのガーデニング講師としても園芸普及活動中。「ベス・チャート 奇跡の庭」（清流出版）、「はじめてでもできる庭木・花木の育て方と手入れ」（大泉書店）などを監修。



青年部会 関東・甲信越 B 総会



講演 (株)板東太郎
代表取締役会長 青谷洋治氏

私たちはまだ未熟な青年部会ですが、これから青年部会・関東甲信越ブロックの活動にご指導、ご協力をお願いいたします。

去年は茨城県支部主幹の元、研修会を開催し(株)坂東太郎代表取締役会長、青谷洋治様をお迎えして会社経営における心構えについての熱いお話を拝聴し、すぐにでも自社に持ち帰って参考にできるヒントを多くいただきました。その後行われました親睦会では、各支部対抗で趣向を凝らしたゲームで対戦し、会の盛り上がり大いに貢献しました。29年度の総会は恒例になり、IT（情報技術）を活用すると共に経費削減を図るため、ペーパーレス総会として、メール等の活用によりペーパーレスで行い

ました。30年度総会は埼玉県新支部主幹の元、実施予定です。これからの関東甲信越ブロックの取り組みとして、全国的な会員減少が進む中、当ブロックも会員数が70名を割るところまで減っていることは大変遺憾であると思います。これからも積極的に新入会員の参加を促し、少しでも会の発展に繋げていきたいと思っています。その一方で、現在ブロック会員が3名になってしまった東北ブロックとの統合を進めていきたいと思っています。この先東北ブロックの会員が増えるまでの受け皿としての役目を担っていきたいと思っています。

現在は、関東甲信越ブロックは全69社園で活動しております。役員会は年5回から6回協会会議室で必要に応じて開催しています。現在、関東甲信越ブロックは全69社園で活動しております。役員会は年5回から6回協会会議室で必要に応じて開催しています。



花と緑のおもてなしプロジェクト・おもてなしガーデンにて

青年部会だより 活動報告 青年部会関東・甲信越ブロック

関東・甲信越ブロック長 安藤和夫
(グリーンファーム・アンドウ 埼玉県)

ました。30年度総会は埼玉県新支部主幹の元、実施予定です。

これからの関東甲信越ブロックの取り組みとして、全国的な会員減少が進む中、当ブロックも会員数が70名を割るところまで減っていることは大変遺憾であると思います。これからも積極的に新入会員の参加を促し、少しでも会の発展に繋げていきたいと思っています。その一方で、現在ブロック会員が3名になってしまった東北ブロックとの統合を進めていきたいと思っています。この先東北ブロックの会員が増えるまでの受け皿としての役目を担っていきたいと思っています。

地方創生、地域活性化プロジェクトも始動

高齢化、少子化、医療・福祉など、新たなテーマにも挑戦

一般社団法人 緑のまちづくり支援機構

暑熱対策施設の用途拡大、屋外分煙施設も具体化へ

前回は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた当機構の暑熱対策の取り組みについて紹介した。暑熱対策施設については、単にオリパラ向けというだけでなく、遮熱が必要な商店街や学校のグラウンドなどへの設置も有効であるとの見方から、多用途の開拓を図っていく方針である。特に学校については、野球、サッカーなどグラウンドでの部活動にあたって、熱中症などを予防したり、体調を崩した生徒・学生のリカバリー施設としての利用も見込めるとみて、学校や教育委員会などに積極的にアプローチしていくことにしている。さらに、商品の多角化という視点から、木材利用が国家的な課題となっていることを踏まえ、多摩産材など国産材を使った木質バージョンの施設の開発にも取り組むことにしている。

このほか開発中のプロジェクトとしては、屋内での喫煙が厳しくなっていることから今後、屋外の喫煙スペースの整備が重要になるとみており、受動喫煙防止はもとより、景観にも配慮したデザイン性に優れた喫煙者、非喫煙者双方にとって快適な分煙空間の創出を目指した施設の開発計画を進めている。近く喫煙施設のモデルケースを目指した具体的な整備事業が実現できると期待している。その折は貴協会にもぜひ、協力、参加をいただきたいと思っている。

長野県中野市と協定に基づく事業提案活動がスタート

当機構が今、大きな精力を注いで取り組もうとしているテーマに「地方創生、地域活性化」のプロジェクトがある。緑のまちづくりを旗印に掲げる当機構としては、街づくりは宿願のテーマだが、今その第一歩を踏み出しつつある。長野県中野市(池田茂市長)との連携事業がそれである。長野県中野市は、リンゴ、ブドウ、イチゴなどのフルーツをはじめキノコやばたんこしょうなどの農産物に恵まれている。シャインマスカットはブドウの最高級品種として人気であり、ワインの評価も高い。日本酒も4つの酒蔵が妍を競っている。

その一方、中野市は、「童謡と唱歌のふるさと」としても知られる。うさぎ追いし——でおなじみの「故郷」の作詞家、高野辰之や日本のフォスター、中山晋平の出身地なのだ。さらに、江戸時代から続く伝承の土人形の里でもある。今も3月31日に開かれる「雛市」は信州に春を告げる伝統の行事であり、多く

の人でにぎわう。農産物のみならず、文化資源にも恵まれた地域なのだ。

だが、その割には全国的に見て長野県中野市の知名度は高くない。接する野沢温泉、小布施、志賀高原などに押されてしまっている。また、農家は所得が高いにもかかわらず嫁不足に悩み、高齢化も急ピッチで進む。ここは、市を挙げて知名度アップ戦略とともに地域活性化に本格的に乗り出そうというわけで、民間事業者や団体などと積極的な連携をスタートさせ

た。当機構も異業種が加盟する街づくりの団体として、積極的な協力体制を取ることになったのである。具体的には、中野市きのこ・果実消費拡大実行委員会と当機構とがパートナーシップ協定を締結した(写真1)。両者が協議し、地域活性化のための様々な事業提案を行い、実現を目指そうというわけである。平成29年度から協定に基づく事業提案活動がスタートすることになっており、すでにその第1弾として、「居場所づくりをテーマとした農業体験事業」の提案を求められている。当機構としても、中野市プロジェクトを発足させ、農業体験を軸足におきながらも、古民家改修などの宿泊施設整備、農業体験にきた都会人と地元民との交流、グリーンツーリズム的な観光振興など、地域の活性化につながる提案をしていく。このほか、中野市も魅力のあるまちづくり事業を展開したいと考えており、当機構としても会員のアイデアを持ち寄り、提案、実現を図っていく方針だ。地方創生のテーマにどこまで貢献できるか、中野市プロジェクトは当機構のさらなる発展の試金石になると期待している(写真2)。



写真2

中野市との今後の連携に向けて、平成28年5月に同市を視察。当機構会長で建築家の栗生明氏が「街の居場所・ステーション」をテーマに講演を行った

屋上緑化管理の実態調査にも着手

また、新たなテーマとして取り組むのが民間所有施設の屋上緑化管理の実態調査である。

屋上緑化は、所有者が自主的に行ったもの以外に、東京都をはじめとする各自治体の義務化制度、工場立地法により一定規模以上の工場に義務付けられたものなども多く存在する。義務化により実施されたケースでは、管理不十分で放置されている緑地が散見されるだけでなく、初期の施工そのものが不完全のため、不具合が生じている施設もあると聞く。

そこで、当機構の緑化メンテナンス・保証制度委員会が主体となって屋上緑化管理の実態調査を進めるとともに、関係機関との連携も視野に、良好な屋上緑化を維持するためのメンテナンス手法の普及を目指す考えである。

おわりに

当機構は、平成29年度に設立9年目を迎える。複雑、多様化する経済、社会情勢のなかで会員相互のアライアンスの必要性は以前にも増して高まっており、今後も会員企業の持つ技術や商品を組み合わせ、新たなシステム商品開発に注力する。

特に当機構が領域とする「まちづくり」の分野においては地方創生、都市再生をキーワードに、魅力ある、快適な安全・安心の生活空間の造成のため、高齢化、少子化、再生エネルギー、地球環境、医療・福祉、自然災害——など数多くの課題解決に挑戦していく考えである。

末筆になりますが、3回にわたり連載の機会を与えていただき、有難うございました。



写真1

平成28年2月25日に行った中野市とのパートナーシップ協定の模様。
左から池田茂・中野市長、田川達・中野市きのこ・果実消費拡大実行委員会会長、正田貴当機構理事長、杉本哲也・NPO法人豊かな地域づくり研究所理事長

(にいくま)
芝桜なら新潟の熊島へ!!
8品種、年間60万pot生産



丈夫で
育てやすい

大量注文
お届け可能



春には一面の桜色!!

- 会社の敷地に
- 学校の花壇に
- 石垣に ●お庭に
- 道路の土手に

定番グランドカバーも豊富です!

オロシマチク	コグマザサ	タイム
タマリユウ	ヒメイワダレソウ	ピンカミノール
フッキソウ	マツバギク	ヤブコウジ
ヤブラン	リュウノヒゲ	

お申し込み・お問い合わせは

TEL 0250-62-4988

FAX 0250-63-8806

E-mail tyk-kumashima@hop.ocn.ne.jp

有限会社 熊島豊園

〒959-2086 新潟県阿賀野市新座3054